

スギ間伐材を原料とする家畜粗飼料について

概要

水稻栽培技術の進歩等によって稲わらの粗飼料利用が減少傾向にある中、宮崎県の南九州木材事業協同組合では、平成12年度から3カ年で、牛の飼育に不可欠な稲わらの代替品として、スギ間伐材を利用した木質系粗飼料の開発・実用化に向けた基礎的な研究・実証を行い、粗飼料として有効であるとの一定の成果を得たところ。

平成15年度からは、木質系粗飼料の生産・給与技術の普及と利用拡大を推進するため、指導的な畜産農家においてモデル飼育展示や木質系粗飼料の給与意向調査等を実施中。

製造方法

スギ間伐材をチップ化して、加圧缶の中で蒸煮した後、すり潰し、牛が食べやすい柔らかさの繊維状粗飼料に加工。

効果

木質系粗飼料を混ぜて牛に与える野外実証試験を行ったところ、通常飼料を与えたものと成長状態に差がなく、安全性への懸念もない

- ・採食性・繁殖・分娩も順調に推移し、子牛も良好な発育
- ・胃液の臨床生化学検査でも酢酸・酪酸等がバランス良く増加
- ・尿検査でも生理障害を示す排泄はない
- ・血液検査でも異常を示す値は検出されていない

動態が穏やかで反芻が促され排便状態も良好である

下痢が減り・毛艶がよくなる

等の良好な結果が得られた。

野外実証試験：JRA 助成事業「木質系粗飼料実用化事業」において、黒田治門^{はろと}宮崎大学農学部教授ら学識経験者等からなる検討委員会を設置の上、実施。

その他

次の助成事業等を活用して、木質系粗飼料の実用化等に取り組んでいるところ。

- ・ J R A 助成事業（中央競馬会畜産振興助成金事業）

平成 1 2 ～ 1 4 年度「木質系粗飼料実用化実証事業」

平成 1 5 ～ 1 7 年度「木質系粗飼料実用化モデル調査事業」

- ・ 科学技術振興事業団の委託開発事業

平成 1 2 ～ 1 4 年度「杉間伐材を原料とする家畜粗飼料の製造技術」

参 考

木質系粗飼料の普及状況について

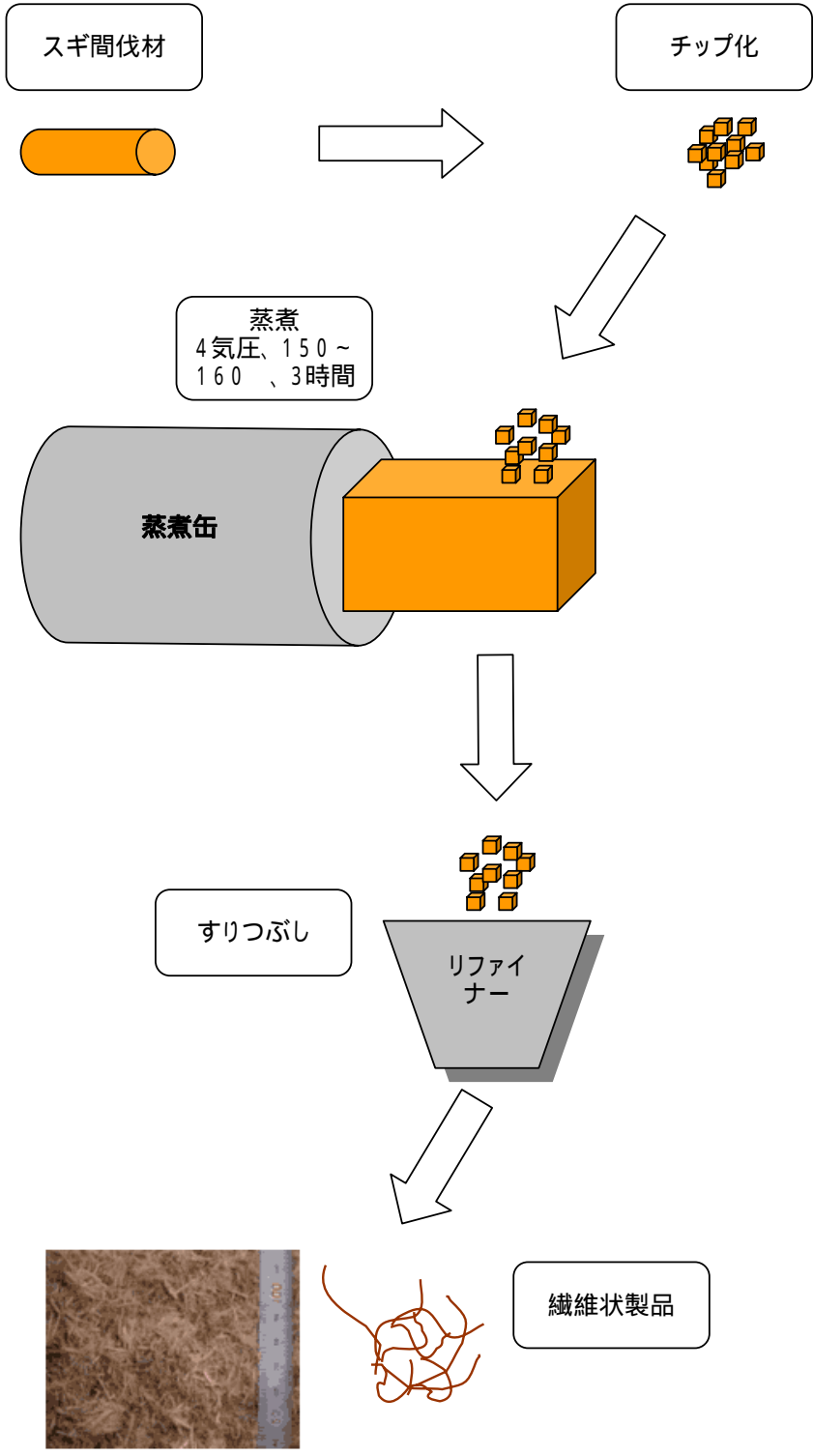
宮崎県、群馬県における給与状況

（南九州木材事業協同組合調べ）

区 分	製造量(トン)	農家戸数(戸)	給与頭数(頭)	備 考
平成 14 年度	60	8	1,000	事業実施前
平成 15 年度	561	9	1,840	
平成 16 年度	567	83	2,061	
平成 17 年度	701	98	4,086	見込み

木質系粗飼料生産について、群馬県と秋田県では新聞記事に掲載されるなど関心が示されている。

スギ間伐材を原料とする家畜粗飼料(ウットンファイバー)の製造工程



家畜粗飼料(ウットンファイバー)